

MLP  
Monthly

2020年6月の

## MLPの動きをザックリご紹介

MLP マンスリー

nikko am  
fund academy

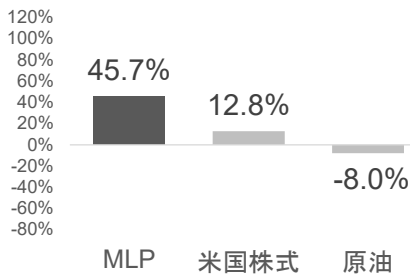
## ■当月のS&amp;P MLP 指数の動き

6月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比-7.1%と3か月ぶりの下落となりました。

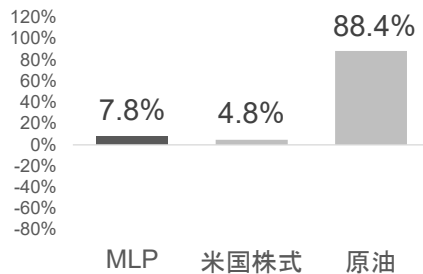
初旬は、経済活動再開への期待や経済指標の改善などを受け、米国株式市場の上昇とともに、MLPも大きく上昇しました。しかしながら、早くから経済活動の再開に踏み切った米国南部を中心に感染者数の拡大がみられ、第2波への警戒感が広がったことなどが嫌気され、下旬にかけて米国株式市場の上値が重くなる中、MLPは大きく下落しました。

## ■過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)

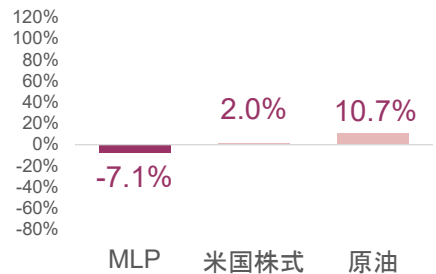
2020年4月



2020年5月



2020年6月



## ■主要指標の動き

MLP: S&amp;P MLP 指数、米国株式: S&amp;P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2020/6/30	2020/5/31	2020/3/31	2019/12/31			
<b>S&amp;P MLP 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	2,858.71	3,077.54	1,960.49	4,443.25	-7.1%	45.8%	-35.7%
プライスリターン	783.79	843.79	553.46	1,283.04	-7.1%	41.6%	-38.9%
<b>S&amp;P 500種 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	6,351.67	6,227.81	5,269.20	6,553.57	2.0%	20.5%	-3.1%
プライスリターン	3,100.29	3,044.31	2,584.59	3,230.78	1.8%	20.0%	-4.0%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	547.42	554.62	419.45	846.58	-1.3%	30.5%	-35.3%
プライスリターン	287.46	291.59	223.40	456.46	-1.4%	28.7%	-37.0%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,209.73	1,174.09	1,082.94	1,481.35	3.0%	11.7%	-18.3%
プライスリターン	276.16	269.47	249.59	345.21	2.5%	10.6%	-20.0%
<b>米国ハイイールド債(ICE BofA Merrill Lynch 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,343.96	1,330.99	1,226.17	1,411.39	1.0%	9.6%	-4.8%
プライスリターン	71.18	70.85	65.94	77.11	0.5%	7.9%	-7.7%
米国10年国債利回り	0.65%	0.65%	0.67%	1.91%	0.00	-0.02	-1.26
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり	39.27	35.49	20.48	61.06	10.7%	91.7%	-35.7%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	1.75	1.85	1.64	2.19	-5.3%	6.8%	-20.0%
米ドル(対円)	107.93	107.83	107.54	108.61	0.1%	0.4%	-0.6%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。■指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

## ■当月の出来事いろいろ

- 主要国の経済活動再開の動きを受け、原油需要の回復期待が広がったことなどから、原油価格は上昇基調となり、6月22日に、WTI原油先物が1バレル＝40.46米ドルまで回復した。
- 6日、OPEC(石油輸出国機構)加盟・非加盟国からなるOPECプラスは、原油の協調減産について、減産幅を縮小する予定だった7月も現行水準を維持することを決定した。ただし、10万バレルの減産を行なっているメキシコが6月で協調減産から抜けるため、減産幅は日量960万バレルとなる。また、OPECプラスは、5月と6月に減産が不十分だった国が9月までに埋め合わせをすることも決定した。ただし、8日に、サウジアラビアが、協調減産とは別に自主的に取り組んでいる減産を6月で終了する意向を示した。
- 16日、IEA(国際エネルギー機関)は、世界の原油需要について、2020年の予想を前年比810万バレル減の日量9,170万バレルと、50万バレル上方修正したほか、21年の予想を初めて公表し、前年比570万バレル増の日量9,740万バレルとした。
- 5月に連邦破産法11条の適用申請の検討を表明していた米シェール開発大手の「チェサピーク・エナジー」が6月28日に経営破綻した。

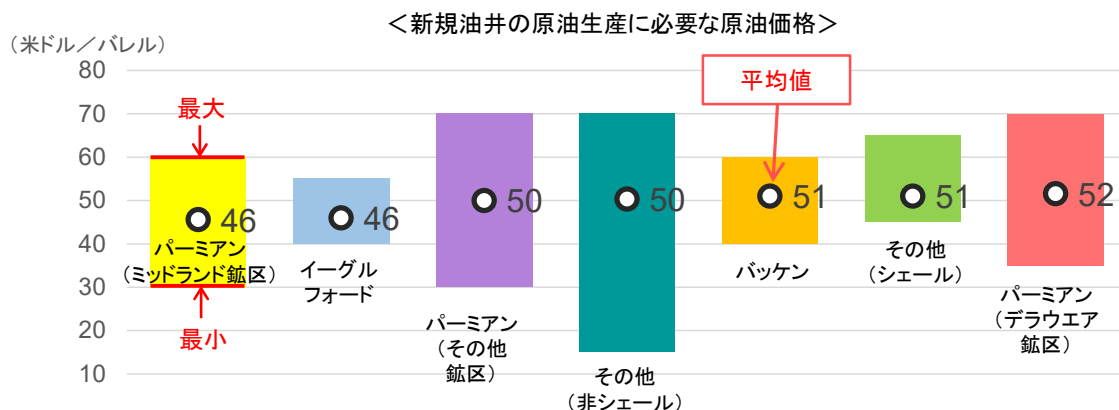
※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

## ■今後の注目点

- 景気や原油需要への影響を見極める意味でも、新型コロナウイルスの感染拡大・収束、および主要国における経済活動再開後の動向が注目される。
- 7月から、2020年4-6月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

## ■米国における新規油井の原油生産に必要な原油価格

米ダラス連邦準備銀行のアンケート調査によると、掘削を必要とする新規油井で原油を生産するコストは平均で1バレル＝49米ドルとなっています。ただし、平均の採算ラインよりも低い原油価格で、シェールオイルを生産できる地域もあるとみられることから、今後、原油価格が1バレル＝40米ドル程度で推移するようであれば、新規油井の一部で生産が再開されることも考えられます。

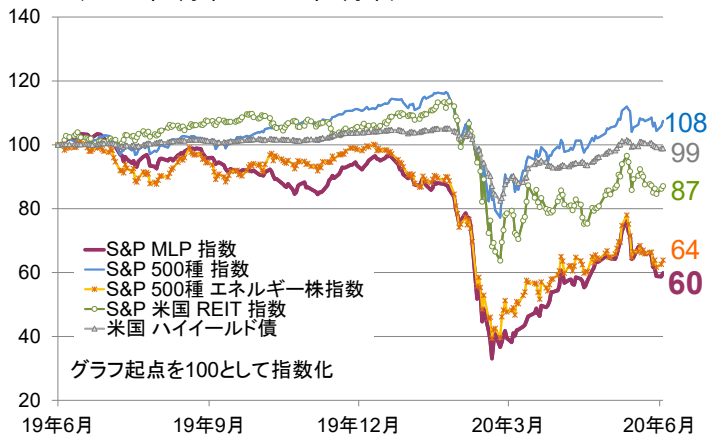


(出所:「Dallas Fed Energy Survey」 March 25,2020)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

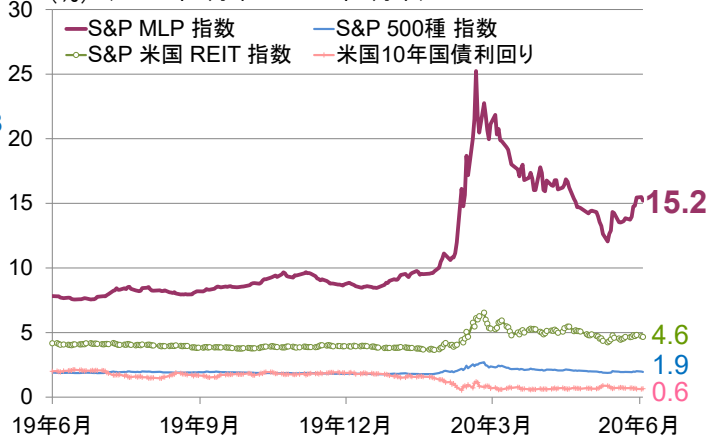
## ■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2019年6月末～2020年6月末)



## ■過去1年の各資産の利回り

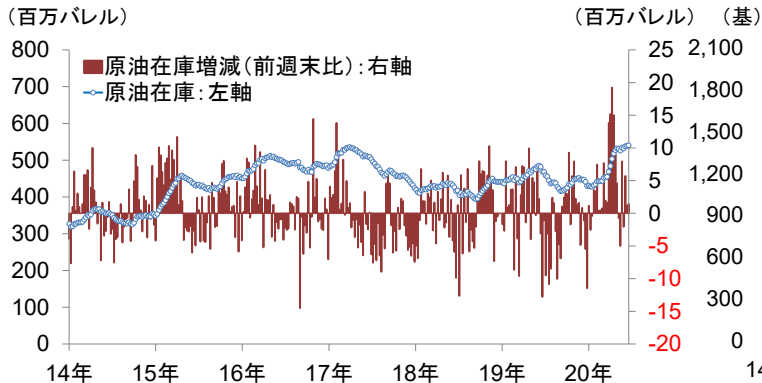
(%) (2019年6月末～2020年6月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。  
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

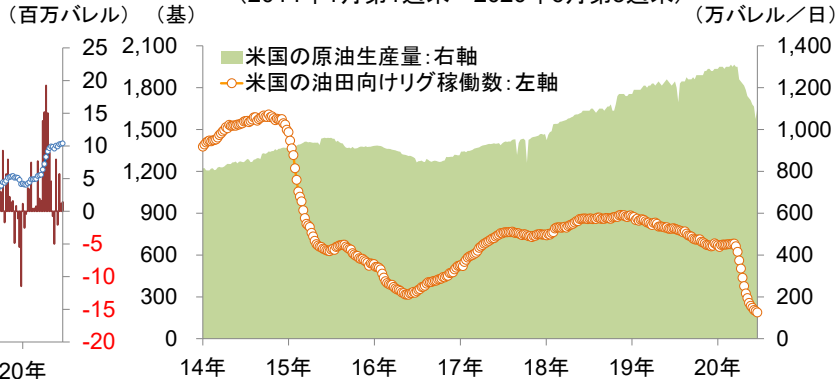
## ■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2020年6月第3週末)



## ■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2020年6月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

## ■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2020年6月30日)



\* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。